



一般社団法人日本マススクリーニング学会 2022年度第2回理事会議事録

日時：2022年8月25日（木）15：30～17：50

会場：フェスティバルスイートカンファレンスルーム③④（中之島フェスティバルタワー37階）・Zoom

議長：大浦敏博 理事長

出席：【会場】石毛信之、伊藤哲哉、大浦敏博、大竹 明、但馬 剛、田島敏広、中村公俊、濱崎考史、山口清次（以上理事）、福士 勝（監事）

【WEB】窪田 満、九曜雅子、酒井好美、重松陽介、田崎隆二、花井潤師、平原史樹、南谷幹史（以上理事）、松原洋一（監事）、長崎啓祐（第50回学術集会長）

以上敬称略

議事次第：

1. 開会の辞（大浦 理事長）

・出席者が定数を満たしたため、理事長より定時にて理事会を開催する旨挨拶があり開会した。

2. 学術集會会長挨拶（濱崎第49回学術集會会長）

・第49回学術集會会長の濱崎理事より挨拶があった。

3. 報告事項

1) 総務報告（但馬 理事）

①会員現状報告

・A系会員の入会が増えているが、これは2月に開催した研修会時の入会が影響している。医師入会者の専門領域は内分泌代謝が多数を占めている。B系会員との割合が変わりつつあるので選挙の際には検討する必要がある。

②委員会組織

・現時点では変更なし。

2) 2022年度中間会計報告（田島 理事）

・2022年4月1日から7月31日までの会計の中間報告がなされた。予定どおり進んでいる。

3) 各委員会報告

①編集委員会（濱崎 理事）

・学会誌掲載状況と広告掲載企業の報告がなされた。
・広告企業の募集について、編集委員会だけではなく理事の先生方にも協力をお願いしたい。
・EBSCOとの契約（データベースへの公開）について、昨年度の理事会で継続審議となっていた。問題がなければ手続きを進めたい旨提案があり承認された。
・投稿規程について一部改訂案が提示され承認された。文献の記載方法の修正が主な改訂箇所である。また、付記として査読の迅速化のための項目を追記した。今後は論文テンプレートのWordファイルなどもダウンロードできるようなども準備して学会ホームページ等で公開していきたい。

②渉外広報委員会（田島 理事）

・学会ホームページに会員情報ページのボタンを設置した。

③精度保証システム委員会（重松 理事）

・NBS精度管理合同委員会の中で活動を継続中。Web上では「新生児マススクリーニング精度保証システム」が整備されてきている。今後は拡大スクリーニング関連についても精度管理事業として取りくんでいきたい。ホモシチン尿症のすり抜け例が報告されており、課題としたい。

④教育研修委員会（窪田 理事）

・研修会（基礎技術者・専門技術者・相談医）の報告がなされた。相談医という名称が誤解を招きやすいため、次回以降は名称を変更する予定。研修会参加者に実施したアンケート結果をふまえて、次回の研修会はオンデマンドで開催する予定。講演動画をサイトにアップ（1～2ヵ月程度）し、期間中は常時視聴できるようにする。ただし、動画サイトの構築などに費用が掛かるため、

参加費の値上げなどを検討する必要がある。

⑤倫理・COI 委員会（平原 理事）

- ・「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が一部改正された。
- ・日本産科婦人科学会「着床前診断に関する見解」が改訂された。主な変更点は下記のとおり。
 - ・対象疾患の「重篤性」の定義変更
 - ・申請、審査方法がより精緻となる。
- ・NBS 対象疾患も PGT の対象疾患になる可能性があり、その際は専門医として意見を求められる。

⑥患者支援登録委員会（大竹 理事）

- ・先天性代謝異常症は JaSMIn で調査中。データを利用してアンケート調査を行いたい。内分泌疾患についても JaSMIn に協力を依頼して準備を進めたい。

⑦特殊ミルク委員会（大浦 理事長）

- ・来年の日本小児科学会学術集會に特殊ミルク関連のシンポジウムを提案している。

⑧保険・薬事委員会（窪田 理事）

- ・令和 4 年度診療報酬改正の結果について報告がなされた。遺伝子診断が新規に認められたが、それぞれ施設基準がある。遺伝カウンセリング加算が取れない施設でも、記載欄の 3, 4 だけ記入すれば遺伝子検査が保険診療として認められる。この届け出については一部学会で誤認識がある旨報告がなされた。
- ・ガラクトース血症の遺伝子診断については今後も検討を続けていく。

⑨将来計画委員会（但馬 理事）

- ・中核医師で本会非会員の方が 8 名いることが判明した。この先生方に入会を勧めていく。免疫不全、SMA 担当の先生方にもアピールしていきたい。

4) 技術部会報告（石毛 理事）

- ・運営委員会開催、功労者表彰の推薦、技術部会研修会開催に関する報告がなされた。
- ・技術部会研修会について、次回となる第 41 回開催は 2023 年 3 月 11 日にオンライン開催を予定している。また、各地域での研修会開催については現時点では未定となっている。
- ・技術部会で実施した「郵便法改定後の影響調査」について報告がなされた。この件について、理事長より、地域差がみられ重要な案件であるので是非調査を継続して結果を報告していただきたいとの提案がなされた。埼玉県では、すべて速達で発送しているとの報告があった。

① 郵便法改正における影響調査を実施し、25 施設から回答があった。（回収率：71%）

② 郵便物（検体）の回収方法は大きく 4 種類存在した。

③ 採血から受付までの所要日数は、郵便配達のみと郵便局回収の 2 グループで分布のピークが 1 日延びた（2 日から 3 日へ）。しかし、産科からの回収施設では、ほとんど変わらなかった。

④ 曜日毎の受付状況は、産科からの直接回収施設を除いた郵便配達のみ、郵便局回収の 2 グループで変化が見られた。

⑤ 出生から CAH 判定までの所要日数は、郵便配達に属する 8 施設と郵便局から回収するグループの 4 施設の中の各 1 施設について改正前後の比較を行ったところ、遅延傾向が見られた。しかし、この項目は各検査機関で異なるため、今後詳しく見ていく必要がある。

⑥ 採血日齢は学会からの通知もあり、日齢 4 での採血が増えていた。

- ・NBS 対象疾患拡大に向けた体制整備に関するワーキンググループ（WG）の進捗状況ならびに今後の活動について報告がなされた。

① 「拡大スクリーニングワーキンググループ（WG）準備委員会」として 3 名の委員（石毛理事、花井理事、富士監事）を決定した。

② 拡大スクリーニング実施施設（試験研究開始、準備施設を含む）対象に、Google スプレッドシートによる実施状況共有（施設名匿名）のための試みを行い、結果報告がなされた。

③ 今後は活動母体の名称を「日本マススクリーニング学会技術部会拡大スクリーニング精度

管理検討ワーキンググループ」内「PCR検査検討チーム」とし、PID/SMAのスクリーニング検査法の精度管理体制の準備を喫緊の課題として進める。

④ 試薬製造販売企業への基礎調査結果は集計中である。WG 委員の選定を行い、調査結果を基に精度管理体制構築のための検討を進める。

5) 認定技術者制度認定部会報告（田崎 理事）

①2022 年度認定技術者審査結果について報告がなされた。

- ・新規申請者は 12 名、更新申請者は 6 名となり、認定部会で審査した結果全員承認となった。
- ・現時点での認定技術者数は 72 名となった。
- ・認定技術者不在の検査機関：現在 6 施設で、検査施設ごとの取得率は 80%となった。

②今後の課題

- ・認定技術者制度規則について曖昧な文言があり、審査時の判断に迷うことがあるため見直しを検討する。併せて、基準単位についても適切かどうかの見直しを検討する。
- ・現行制度に関して意見聴取を行いたい。

6) 功労者表彰報告（大浦 理事長）

- ・2 名の推薦があり承認された。

九曜雅子氏（富山県衛生研究所）、安片恭子氏（ちば県民保健予防財団）

7) 永年勤続者表彰報告（大浦 理事長）

- ・2 名の推薦があり承認された。

坂口知子氏（大阪公立大学大学院医学研究科）、長谷川智美氏（東京都予防医学協会）

8) 学会細則について（大浦 理事長）

- ・3 月の理事会で承認された細則について、定款との齟齬を修正するため一部改訂した（8 月 4 日開催の理事会にて承認済）。

9) 選挙スケジュールならびに選挙委員について（大浦 理事長）

- ・細則第 2 条に基づき選挙委員を理事長が指名することになっている。選挙委員候補を選出し、後日メールで報告する。選挙委員会で選挙方法（郵送または Web 選挙）についても検討していただきたい。

10) その他

①日本医療機能評価機構【Minds】掲載について（田島 理事）

- ・下記 2 点について【Minds】に掲載された。
 - ・先天性甲状腺機能低下症マススクリーニングガイドライン（2021 年改訂版）
 - ・21-水酸化酵素欠損症の診断・治療のガイドライン（2021 年改訂版）

②First Impact Factor for IJNS in June 2023（田島 理事）

- ・今回投稿論文が 3 編しか集まらなかったため優秀論文の審査は行われなかった。次年度以降は Impact Factor が付くことになったので、是非投稿をお願いしたい。

③米国小児科関連学会発表者推薦について（大浦 理事長）

- ・日本小児科学会より米国小児科関連学会発表者推薦の依頼があった。未発表の論文や研究であることが条件となっている。推薦があれば 10 月中に提案をお願いしたい。

4. 審議事項

1) 財務関連：2023 年度予算（案）（田島 理事）

- ・2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日の予算について説明がなされた。
- ・2022 年度と大きな変更点はないが、項目ごとに微調整を行い、予算案を作成した。選挙方法次第で変更が生じる場合があること、精度管理事業については別途予算を作成することなども追加で報告がなされ、理事会にて承認された。

2) 母子手帳改訂の要望書提出について（濱崎 理事）

- ・母子健康手帳の記載の中に新生児マススクリーニングに関する内容が乏しいため、もう少し充実した内容にしていただきたいという要望書を厚生労働省子ども家庭局母子保健課に提出したいと

いう提案がなされた。

- ・本要望書については日本小児保健協会にて先に検討がなされたが、専門的な内容なので本会から提出してほしい旨依頼があったとのこと。
 - ・本件について母子健康手帳、省令様式の「検査の記録」欄に予備欄にQRコードを付けるなどして詳細を記載したい旨、事前に母子保健課の担当者に確認したところ、この欄の変更は難しいため、任意様式欄への追加でお願いしたいとの回答があったと報告された。そのため、「先天性代謝異常等の検査を受けましょう」という項目の記載内容に追記していきたいとのこと。
 - ・「遺伝カウンセリング」という文言は一般の方に浸透していないため削除した方が良いのではという意見があった。
 - ・「拡大スクリーニング」はまだ地域格差があるため、検討が必要ではという意見があった。
 - ・上記の意見を受けて要望書の文面を修正し、メール理事会にて再度審議をする。
- 3) 第52回学術集会長について
- ・2025年度に開催する第52回学術集会長に伊藤哲哉理事が立候補され、理事会にて承認となった。
- 4) 精度管理事業窓口移行について
- ・8月4日開催の理事会でNPO法人から学会への業務移行について承認されたが、その際、不足していた資料をメールで提出し、その件についても承認となった旨報告がなされた。
5. 閉会の辞（大浦 理事長）
- ・理事長より閉会の挨拶があり、理事会は終了した。

以上

2022年8月25日

一般社団法人 日本マススクリーニング学会

議長： 大浦 敏博



議事録署名： 福士 勝



議事録署名： 松原 洋一

